

桜蔭俳話会

第一〇八回通信句会 選句結果、

(平成二十五年冬。選句数八句。特選には○をつける)

6点①除夜の鐘丹沢の峰響きけり	忠夫	1点 思はずにシャッター押せし今朝の雪	ツル子
4点 冬ぬくし友の和服の総しぼり	ツル子	4点 庭やせて石の眼につく冬の朝	邦子
4点 雑草の枯芝乱す生きさまよ	溪水	3点 女湯の大窓よりの冬紅葉	幸子
3点①鶯枯れて真白き壁の顛わるる	ヤエ子	3点 冬落暉忽ちネオンの彩深く	溪水
4点 探梅やじぐざぐ辿る最寄駅	秀一	8点②昭和の子みな湯たんぼの記憶かな	明美
4点 風花やドラマに涙したる朝	安紀子	4点①冬薔薇花ひとひらの記憶消え	のりと
4点 街の灯を揺さぶる寒の地震かな	明美	現役にゆづり遅らす冬昼餉	真三
7点 初稽古音締め指の仄紅き	幸枝	1点 大雪や予報が気になる三回忌	邦子
2点 穏かな年を願って初詣	邦子	2点①町ひとつ砂地に建ちし冬日和	明美
9点④山深き風巻 <small>しまき</small> の谷戸は動かざり	のりと	5点①標高を横一線に雪の峰	のりと
1点 初日の出今年は何かよい予感	直子	1点 長寿母望みはぼつくり春隣	友子
12点②読初や幼と開く古絵本	友子	5点 谷深し走り根を踏み落葉踏み	幸子
10点 雛飾るこのひととき年齢なし	梅乃	4点①母の背の尻の頬まるし春隣	ヤエ子
歩道行く前を左折す師走なり	真三	1点①探梅の道のり遠し半減期	守
4点 先頭のランナー消えし冬木立	守	2点 冬深し電話で済ます長話	溪水
3点 冬晴れや三つ向こうに白き峰	のり子	5点 北国の旅の寒さを湯にほぐす	梅乃
5点 冬日向大道芸を遠巻きに	幸子	4点 節分の笑ひも写し窓の外	ツル子
1点 一口のワインに酔うて新社員	幸	1点 大寒も風呂好きは幸せなり	直子
10点②対岸のトランペットや日脚伸ば	秀一	8点①湯殿洗ふ朝の光や春隣	幸枝
1点①お寒い体喜ぶコタツかな	直子	3点 切り岸に土牢ひとつ冬の雁	安紀子
3点①円錐の骨格立てり凍て木立ち	のり子	枝番地誤字に届かぬ春霞	幸
2点①運動の後の清しさ寒昂	ヤエ子	3点 登校児声はひそやか皆マスク	忠夫
2点 リハビリや独りの居場所冬董	幸枝	6点 網棚に残る荷物や初電車	秀一
4点 立春の厨の隅に陽の遊ぶ	梅乃	7点②冬帝や関八州を眠らせり	のりと
4点 静もれる宮やどんだの猛き跡	安紀子		
2点 元旦に五年日記の第一歩	忠夫		
2点 買初や物減らす計早破る	友子		
3点 春の雪破獄の本の余韻かな	幸		
1点 新春の校門光る花々よ	真三		
6点①待ち針の赤き頭や春近し	守		

(特選○無しの方が一人おられましたこと付記いたします)

得点順

十二点

② 読初や幼と開く古絵本

藤本 友子

街の灯を揺さぶる寒の地震かな

古野 明美

十点

② 対岸のトランペットや日脚伸ぶ

佐渡谷秀一

先頭のランナー消えし冬木立

増田 守

雛飾るこのひとときに齢なし

小川名梅乃

立春の厨の隅に陽の遊ぶ

小川名梅乃

静もれる宮やどんだの猛き跡

藤崎安紀子

庭やせて石の眼につく冬の朝

平野 邦子

節分の笑ひも写し窓の外

荒木ツル子

九点

④ 山深き風巻の谷戸は動かざり

坂本のりとし

(以下省略)

八点

② 昭和の子みな湯たんぼの記憶かな

古野 明美

① 湯殿洗ふ朝の光や春隣

桜井 幸枝

七点

② 冬帝や関八州を眠らせり

坂本のりとし

初稽古音締め指の仄紅き

桜井 幸枝

六点

① 除夜の鐘丹沢の峰響きけり

安中 忠夫

① 待ち針の赤き頭や春近し

増田 守

網棚に残る荷物や初電車

佐渡谷秀一

五点

① 標高を横一線に雪の峰

柏尾のり子

冬日向大道芸を遠巻きに

辻 幸子

谷深し走り根を踏み落葉踏み

辻 幸子

北国の旅の寒さを湯にほぐす

小川名梅乃

四点

① 冬薔薇花ひとひらの記憶消え

坂本のりとし

① 母の背の児の頬まるし春隣

岩野ヤエ子

冬ぬくし友の和服の総しぼり

荒木ツル子

雑草の枯芝乱す生きざまよ

瀬戸 溪水

探梅やじぐざぐ辿る最寄駅

佐渡谷秀一